



国連承認
取得技術

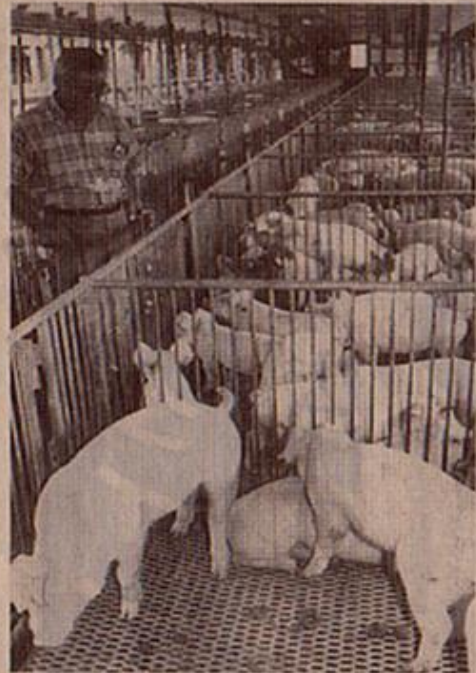
朝日新聞

1995年(平成7年)10月18日 水曜日

第 一 頁 第 一 版

家畜のふんのおい消せ

えさに混ぜて使う添加物が好評



A茨城県経済連傘下の「茨城県美野里町」の養豚場、島田敏之さん(左)によると、「ふん独特のにおいがほとんどなくなり、畜舎内のハエが数えるほどになった」といいます。

「だれが使っても 同じ効果得た」

島田さん方では、飼育頭数を約五百頭から千頭に拡大するのに伴って倍増するふん尿の処理をどうするか最大の悩みだったが、「BX-1」の導入で、ふん尿の臭いも早まった。一月当たりコストは三千円程度で済んだ。

この効果に目をつけ、J

悪臭公害の一つとなっている家畜のふんのおいを消せると、ここに数年、えさに混ぜて使う発酵菌の添加剤の商品開発が盛んだった。注目を集めたEM(有用微生物群)や、全国農業協同組合連合会が昨年発売した「201(ニオワン)」などの製品に交じり、栃木県佐野市村上町に工場を持つ株式会社「カワシマ」(川嶋 賢二社長、本社・館林市)が売り出した微生物資材「BX-1」が話題を呼んでいる。

館林の「カワシマ」が販売

会長の川嶋和男さんと社長 城くみあい(畜産)が今年六月の賢二さん父子が、十月月ころから、組合員の養豚ほと前から全国各地の肥よ農家約二十五軒に導入し、くみあい畜産の獣医師 脱臭効果のある土壌菌を遊を移める原田栄次業務副部長は「最近では多くの添加物が出ているが、だれが使っても同じ効果が得られたのがBX-1だった」とい

「カワシマ」の依頼で、三年前から成分分析や動物実験などの研究を続けている山口大学農学部で飼育学部長によると、BX-1は数種類の乳酸菌と酵母菌が含まれる複合菌の一種で、「どの菌がどう作用するかは解明されていないが、ふん独特の臭いが甘酸っぱいにおいになる効果がある」とい

昨年四月から試験的に導入している茨城県美野里町の養豚場、島田敏之さん(左)によると、「ふん独特のにおいがほとんどなくなり、畜舎内のハエが数えるほどになった」といいます。

昨年、「201」を開発した全農飼料畜産中央研究所(茨城県つくば市)によると、現在、市場には二十種類を超す消臭用添加剤が出回っているが、普及し始めたのはここ数年という。ただし、「201」も含め、100%においを消すものもなければ、全く効かないものもない。どの発酵菌が何にどう有効かなどは、ほとんど未解明なのが現状」とい

牧田学部長も「漬物がおいしい、おもしろくないみたいなのも、かなり古くから経験的に利用されていた民間利用を、現在、科学的に解明している段階」と、現在、研究途上の分野であると説明する。

カワシマでは今後、サトウキビのかすなどを発酵処理し、家畜のえさに変える研究なども始めたい、と意欲的だ。

ハエが目立たず、においもほとんどなくなった豚舎に立つ川嶋和男会長「茨城県美野里町の農家で